

で まち し が い ち

出町市街地地区

(富山県砺波市)

- 計 画 期 間 平成 17 年度～平成 21 年度
- 面 積 117h a
- 交付対象事業費 3,228 百万円
- 市人口 47,447 人

ポイント チューリップ公園周辺施設へ来客した観光客が、中心市街地へ流入できるネットワークを確立し、中心市街地の活性化を目指す。

地区概要 土地区画整理事業を実施し、幹線道路や曳山会館、チューリップ公園を整備することで、豊かで生活しやすい都心づくりを目指し、定住人口の確保や、観光客の市中心部への誘導を図る。

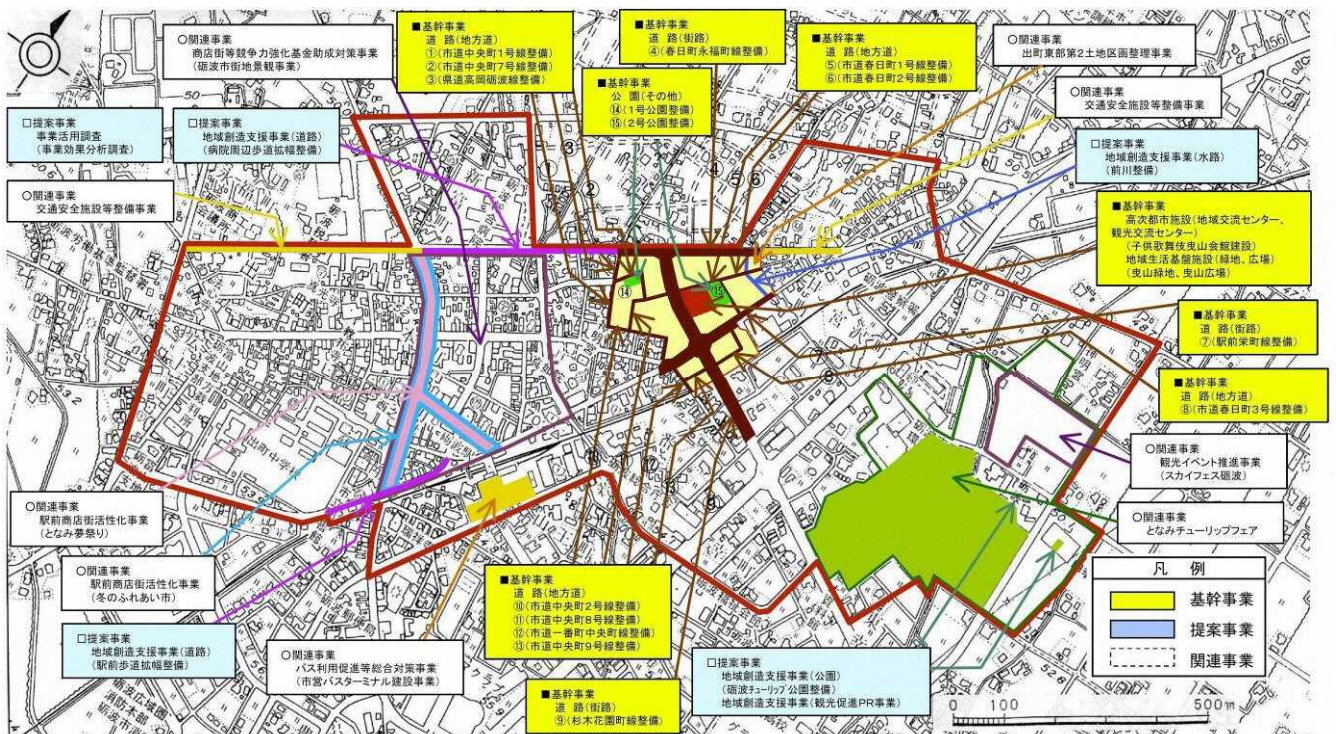
目 標 豊かで生活しやすい都心づくり。

指 標 当地区は狭隘な住宅が立地されており、郊外再築ではなく、整備された市街地環境で定住できることを目標とした。

地区人口の減少率	-7.50% (H16)	→	0% (H21)
来街観光客数	49,000 人 (H16)	→	55,000 人 (H21)
歩行者通行量	200 人 (H16)	→	300 人 (H21)

事業内容 基幹事業 (3,063 百万円) → 道路 (幅員 4m～18m、延長 1,835m)、公園 (2カ所 1,750 m²)、地域生活基盤施設 (緑地、広場: 950 m²)、高次都市施設 (地域交流、観光交流センター: 2,750 m²)

提案事業 (165 百万円) → 地域創造支援事業 (水路: 幅員 4m、延長 96m) (公園: 遊具、映像室新設) (歩道拡幅: 延長 600m) (観光促進 PR 事業: 映像製作)、事業活用調査 (事業効果分析調査)



地区の現況と課題

本地区においては、人口の減少、少子高齢化、地域産業の活力の低下、モータリゼーションの進展に伴う大型店舗の郊外立地、及び駅周辺の街路整備水準の低下等により、市民の生活や来訪者のアクセスに十分対応出来ていない状況にあり、その結果、中心市街地における空洞化が進行しつつある。

また、チューリップ公園に代表される観光拠点施設が市街地の周縁部に形成される中、それらの観光施設から中心市街地までのアクセスが悪いことや、市街地に観光施設がないことから、中心市街地への観光客の流入がみられず、周縁部の観光施設と中心市街地が相互に連携するネットワークの確立が課題である。



▲シャッター通となっている商店街

提案事業の特徴

子供歌舞伎曳山会館建設

平成6年に富山県指定無形民俗文化財となった「出町子供歌舞伎曳山」の保護と振興を図るとともに、通年観光の拠点とする。

砺波チューリップ公園の整備

市民の日常の憩いの場として、コンビネーション遊具を設置し施設の充実を図る。

また、四季彩館に映像施設を新設し観光客誘致促進の更なる強化を進めるため、屋敷林やチューリップに含まれた散居村の美しい「砺波の四季」、四季を彩る「花の街となみ」を紹介する等の観光促進のPR事業を展開し、新たな魅力を発信することにより、年間を通しての観光リピーターの増加を図る。



▲出町子供歌舞伎曳山



計画策定プロセス

出町市街地東部地区のまちづくりの取り組み

当地区においては、平成10年から市街地未整備地域における区画整理事業の早期事業化の機運が高まってきた。その後、世話人会やまちづくり推進協議会が組織され既成市街地の活性化に向け先進地視察や機関紙の発行、ワークショップを15回、発起人会を17回開催し、着々と地元協議が進められ平成17年に組合が設立された。

住民団体等の活動概要

砺波商工会議所が中心となり、中心市街地では夏のイベントとして、市内各地区で守り継がれる伝統文化・芸能を披露する「となみ伝承やぐら大祭」、冬のイベントとして「となみ食彩ふれあい市」を開催し、賑わいを商店街に呼び戻そうとしている。秋のイベントとして、砺波商工会議所青年部ととなみ青年会議所が合同で「スカイフェス砺波」を開催し、秋の空に気球をあげている。春には、チューリップフェア期間中に駅前広場で「となみらいフェス」にてチューリップを使ったワークショップなどを行っている。また、砺波子供歌舞伎曳山振興会では4月29日・30日に「出町子供歌舞伎曳山祭」、砺波市観光協会では6月第2金曜・土曜日に豊年満作を祈る「となみ夜高祭り」を開催している。



▲「となみ伝承やぐら大祭」